



知的障がい、肢体不自由、病弱等の障がいを有する児童生徒が学ぶ特別支援学校として、2008年4月、岐阜市北西部に開校される。「夢を育て、未来を創る」を校訓に、「夢の実現に向け自ら考え、生き生きと表現できる、心のふれ合いを大切に、自己共に尊重できる児童生徒」を育成している。作業学習では、営業許可を受けた、喫茶店「café 和ーなごみー」を年間25回オープンしている。小学部、中学部、高等部の3学部が設置されている。

[所在地]岐阜県岐阜市西秋沢2-363-1



岐阜市に設置された視覚障がい者が学ぶ盲学校。1894年に岐阜聖公会訓盲院として創立される。障がいを克服し、互いに助け合い、明朗でたくましく生きる力を身につけ、社会に貢献できる児童生徒を育成するため、点字や拡大教科書、音声教材、ICT、視覚補助具、パソコン等の積極的な活用、工夫を行い、学習を進めている。また、高等部の課程である本科保健医療科ではあん摩マッサージ指圧師、専攻料理療科ではあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を目指して学習し、職業教育の充実を図っている。

[所在地]岐阜県岐阜市北野町70番地1



岐阜本巣特別支援学校の生徒らが、IAMAS山田晃嗣准教授が開発に携わったオーダー用アプリを用いて喫茶「café 和ーなごみー」で作業学習を行った。

場 所 岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

できるまでのドキュメンタリー

6月14日(水) 10:00~11:00	撮影について打ち合わせ
6月21日(水) 16:00~17:00	会場下見@美術館
6月29日(木) 8:50~18:30	撮影
8月30日(水) 13:00~13:30	会場確認@美術館
10月5日(木) 17:00~18:00	会場準備、打ち合わせ@美術館



6月29日



6月15日



オーダー用アプリ画面



8月30日

IAMAS篠田幸雄プロジェクト研究補助員が開発した「音符カード」を音楽の授業で使用。生徒はカードに触れることで音の種類、長さの概念を学んだ。授業の様子から、田中祐衣講師と改善を図った。

場 所 岐阜県立岐阜盲学校

できるまでのドキュメンタリー

6月13日(火) 13:25~15:30	見学、撮影について打ち合わせ
7月 5日(水) 8:50~16:50	撮影
9月21日(木) 14:00~15:00	会場下見@美術館
11月1日(水)	会場準備、打ち合わせ@美術館



音符カード



7月5日





池田町にある障がい支援施設。1988年に設置され、知的障がい、身体障がい、精神障がいを持つ方々35名が、カフェや農業、踊りや創作等の活動を行っている。自分の強みを活かし、充実した毎日を送れるよう一人一人に応じた支援している。また、障がいを持つ方の表現力や魅力を少しでも多くの方に知ってもらう為、ステージパフォーマンスや、アート作品の制作にも積極的に取り組んでいる。

【所在地】岐阜県揖斐郡池田町下東野18-8



「やさいdeミュージック？」で使用する楽器をIAMAS篠田幸雄プロジェクト研究補助員が施設スタッフや利用者とともに試作を繰り返しながら開発した。

場 所 ふれ愛の家

できるまでのドキュメンタリー

6月 7日(水) 10:00~12:00 ふれ愛の家見学、楽器について打ち合わせ

6月27日(火) 8:50~16:00 利用者が初めて楽器を体験、撮影

8月 8日(火) 14:30~15:00 映像確認、打ち合わせ



6月27日



## アートまるケット2017 「ツナがり ツナがる ツナがれば」

- 会 期 2017年8月25日(金)~11月3日(金・祝)
- 会 場 岐阜県美術館
- 主 岐阜県美術館、岐阜新聞・ぎふチャン
- 協 岐阜県立国際園芸アカデミー、  
岐阜県立国際たぐみアカデミー、  
岐阜県立森林文化アカデミー、  
情報科学芸術大学院大学[IAMAS]、  
岐阜県立大垣特別支援学校、  
岐阜県立可茂特別支援学校、  
岐阜県立岐阜盲学校、  
岐阜県立岐阜本巣特別支援学校、  
岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター、  
社会福祉法人 池田町社会福祉協議会  
池田町障害福祉サービス事業所 ふれ愛の家、  
特定医療法人 清仁会 のぞみの丘ホスピタル
- 後 援 NHK岐阜放送局、岐阜県教育委員会
- 料 金 無料

### 「ツナがり ツナがる ツナがれば」 庭園構造物

日比野がイメージしたデッサンに元を、庭園に鉄骨柱を立て、23枚の三角形の帆(シェードセイル)を張った。この他、小川にウッドデッキ1基と小橋2基を設置した。シェードセイルやウッドデッキは憩いの場となり、小川は美術館の建物から庭園内をツナグ装置となった。また、イベントで制作した船形プランターボックス、植木鉢が小川周辺を彩った。

## ツナがり・ツナがる・ツナがれば

人とロボットの違いは、きっと「死」なのだろう。  
人が「ツナがりたい」と思うのは、「そこ」にあるのだと思う。  
「死」というものを前向きに捉える働きが  
「アート」を産み出したのだと考える。  
いや、ひょっとすると・・・。  
人がこの世界に誕生する前から「アート」は  
きっと何処かにあったのだろう。  
命あるものをこの世界に生み出す時に、  
「アートがあるから!」という条件で  
私たちは生まれてきたのかもしれない。  
「アートとのツナがり」  
「アートとツナがる」  
「アートとツナがれば」  
なんとなく、いい気持ちになるのは  
そんなせいな気がする。

日比野克彦





# ドキュメントブース

会期中美術館に訪れた来館者が、協力機関を知ることのできる、ドキュメントブースを多目的ホールに設置した。各アカデミーは木製のブース上に、会期前の活動で使用した道具や写真パネル、協力機関で普段使用している教材等を展示した。また、映像作家の池田泰教と音響作家のウエヤマトモコが協力機関での活動や普段の様子を取材し、制作した映像を各ブースで放映した。



施設の紹介パネルや会期前の活動写真アルバムも合わせて展示。  
アカデミー・大学院大学のパンフレットも配布。



アートまるケット  
ツナガ

